

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年5月12日

【評価実施概要】

事業所番号	0390100030		
法人名	有限会社ケアホーム愛の手		
事業所名	グループホーム愛の手		
所在地	〒020-0031 岩手県盛岡市青山1丁目19番51号 (電話) 019-613-5600		
評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会		
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号		
訪問調査日	平成21年3月19日	評価確定日	平成21年5月12日

【情報提供票より】(平成21年 3月 5日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 11 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	14 人
職員数	14 人	常勤 11 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 6.1 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000~45,000 円		その他の経費(月額)	理美容、おむつ代実費
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,000	円	

(4) 利用者の概要(3月 5日現在)

利用者人数	14 名	男性	0 名	女性	14 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名		
要介護3	5 名	要介護4	4 名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 86 歳	最低 79 歳	最高 98 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	あべ内科消化器科クリニック
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

有限会社「ケアホーム愛の手」が運営する2ユニットの事業所で、他にヘルパーステーションを併設している。ホームは住宅街の中心に位置し周辺には大型スーパー、特別養護老人ホーム、小学校、保育園、警察機動隊などがある。ユニット合同のレクリエーションは、利用者と職員が一緒に行っている。共用空間も清潔で、利用者の作品できれいに飾られ、利用者の表情も豊かで安心して暮らす様子が窺える。今後の課題は、地域との交流をより一層広げるほか、さらに災害対策を充実したいとしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価で話題になった「地域とのつきあい」「重度化や終末期に向けた方針共有」「鍵をかけないケアの実践」などについては今後の課題との認識により自己評価及び外部評価を実施することにより、職員一人ひとりが「改善点や気づき」について話合うきっかけになっており、今後の取り組みを期待したい。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員が担当している項目について自己評価し、管理者と職員で話し合い作成している。また、作成の過程が評価の意義を理解するよい機会となっており、今後の支援に繋げたいとしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1回開催され、利用者の状況や事業所の活動について報告しているが、会議は施設長が一人で進行、報告している。これからは職員の育成の観点からも役割を分担し、会議の次第や報告内容などの資料を充実し、討議内容を運営に反映させたいとしており、今後の取り組みを期待したい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ホームの「愛の手だより」を送付し利用者の暮らしの状況を知らせたり、意見箱を活用したり、面会時に相談を受けたりして対応している。また、重要事項の説明時に責任者を知らせていつでも対応できることを周知し、運営への反映に努めている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会には加入しているが、地域との交流をより広げるために、盆踊り大会なども参加したいと考えている。また、住宅密集地であることから、災害対策で避難場所の確認や隣近所の協力も必要なため、運営推進会議の場を活用していく予定である。安心して生活できるホームとして地域の協力を得ていきたいと考えており、今後の取り組みを期待したい。

2. 評価結果(詳細)

確定日 平成21年5月12日

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所の開設時に運営者が(案)をつくり、職員と一緒に検討し独自の理念をつくりあげている。	○	開設時の平成13年に作成した理念で現在に至っているが、サービスも地域密着型として展開されており、理念の内容や構成について検討したいと考えている。今後の取り組みを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をホームの玄関に掲示するとともに、毎月の職員会議で職員が理念を共有するために確認しあっている。また、毎日の申し送り時に話し合い実践に向けたケアの取り組みに努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、回覧板を回す際には利用者と一緒にいくなどして利用者や事業所の理解をしてもらうよう努めている。また、公民館で開催される文化祭やステージ発表、チャグチャグ馬つこ行列などの見学に出かけ地域との交流に努めている。	○	地区では盆踊り大会なども開催しており、協力を得ながら見学できるように取り組み、地域との交流を深めたいと考えている。交流の機会を広げる今後の取り組みを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員が担当している項目について自己評価し、管理者と職員で話し合い作成しており、作成の過程や話し合いが評価の意義を理解する機会となっている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、利用者の状況や事業所の活動について報告し、意見や要望は職員で検討してサービスの改善に努めている。	○	会議は施設長が一人で進行、報告など運営しているが、これからは職員の育成の観点からも役割を分担することを検討する予定である。また、会議の次第や報告内容などの資料についても検討して会議を充実し運営に活かしたいとしており、今後の改善への取り組みを期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターが主催するケア会議や研修会に参加するほか、介護認定の更新や家族に代わって書類の手続きに行った際に利用者の状況を説明したりして連携に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用料の請求時に、健康チェックやホームの「愛の手だより」を送付し、面会時にも相談を受けたりして生活の状況について報告している。また、金銭管理は行っておらず、また職員の異動も考えていないとしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの玄関に意見箱を設置するほか、家族などの来訪時に意見や要望を聞くように努めている。また、重要事項説明書でも責任者を説明している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の他の事業所への異動は考えていないが、1階、2階ユニット間の交流は実施している。離職による職員採用の場合は、日勤の時は、馴れたスタッフと一緒に支援し、夜勤の時も馴れた職員と二人で勤務するよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内での研修計画は特にないが、外部の研修案内には積極的に参加するよう職員に呼びかけ機会の確保に努めている。	○	職員の知識や技術の習得のために、勤務体制を配慮して交代等により全職員が出席できるような環境をつくるとともに、研修結果は伝達研修を実施して職員の資質の向上を図りたいとしており、今後の取り組みを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月に1回開催の岩手県グループホーム協会や毎月開催の盛岡ブロック協議会の主催する会議に参加し、交流と情報交換を行い質の向上に向けた取り組みに努めている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	自宅を訪問して利用者や家族から意見や要望を聞いたり、本人にホームに来て貰ってレクリエーションに参加してもらったりして雰囲気に馴染めるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の持っている力を発揮できる機会をつくり、調理をしたり、プランターで職員と一緒に花を育てたり、利用者からヘッチョコ団子やひつまつくりなどを教わったりと支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との暮らしの中で、会話や行動などの状況をチャートに記録し、本人の希望や意向などの把握に努めている。また、困難な場合は記録を参考に表情などを観察して検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	チャートを参考にし、家族や関係者と相談するとともに、職員で話し合い意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6か月ごとに見直しをするほか、利用者の行動や体調の変化が生じた時は、家族や関係者と相談し介護計画の検討を行い、新たな計画を作成するように努めている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人の希望により美容院に行ったり、デパートに買い物に行ったり、家族の都合により職員が通院介助をしたりと柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用前からの主治医を継続し、家族から希望があればホームの協力医に変更している。主治医、協力医とも普段からコミュニケーションを大切に、通院の際は看護師が同行し適切に受診できるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用開始の段階から家族と相談し、ホームで対応できることを話し合っている。また、対応では、主治医を中心に訪問看護、家族、職員が連携し、職員も方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	失禁やトイレ誘導、入浴、食べこぼしなどの対応は、その人に合わせさりげなく声がけをし、誇りやプライバシーを損ねることのないように努めている。また、ケア記録などは個別に保管し管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や食事時間、レク活動など決まりを優先することなく、利用者の希望により、散歩をしたり、花を育てたり、美容院に行ったり、季節に応じて畑に行き野菜づくりをしたり、りんご狩りなどをして支援している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食、調理や盛り付け、後片付けの手伝いをしてもらったり、食事は職員と一緒に言い話を提供しながら楽しめるように支援している。また、ひな祭り、クリスマス、敬老会などには行事食を一緒につくったりして楽しめるよう工夫している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週4回で、午前中が入浴日となっており、利用者の希望を聞いて対応している。入浴したくないという利用者には、それとなく話をしたり、次の日に変えたり、清拭をしたりして楽しめるように工夫しているが、どうしても入浴しない場合には家族に協力してもらっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理の手伝いや畑仕事、洗濯干しなど職員と一緒に役割を持って過ごしている。また、特技を生かしてはり絵や編み物などをしたり、踊りや歌などを歌ったりして楽しく過ごせるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や毎日の食材の買い物などに職員と一緒に出かけたり、ドライブやブルーベリー狩りなど、できるだけ戸外に出かけられるよう支援している。	○	バスなど公共の交通機関を利用して、利用者が自分で料金を支払って切符を買うなどしながら外出してみたいと考えていることから、安全等に配慮した支援を期待したい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかける弊害を理解しているが、常時外出する利用者がいることから、やむなく玄関は日中鍵をかけている。しかし、雰囲気を感じながら対応できるようにし、鍵をかけない取り組みをしたいとしている。	○	運営者も職員も鍵をかける弊害については、話し合いをして理解しており、利用者の表情や雰囲気を察知し付き添うなど見守りの徹底を図ることや、センサーの設置など検討して、できるだけ鍵をかけないケアの実践に向けた取り組みを期待したい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年一回の避難訓練を計画して、職員と利用者だけで実施している。また、運営推進会議には地域の協力が得られるよう取り組みたいことを呼びかけているが、具体的な協力体制の確立までにはいたっていない。	○	ホームの周辺は、住宅やアパートが密集しており災害対策において地域住民との連携が大切である。また、職員も利用者も避難場所をしっかりと確認しておく必要があり、積極的に運営推進会議を活用して災害対策に取り組まれることを期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、食事量や水分摂取量をチェックし、食べやすい大きさや硬さに配慮している。また、体重測定を月2回実施し標準体重に近付けるよう努めるとともに、利用者の状態に応じて支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の作ったはり絵を飾ったり、手まりなどを工夫し小上がりの暖簾にしてみたり、花を飾ったりして生活感や季節感を採り入れ、居心地よく暮せるように努めている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しながら、調度品、人形、写真、仏壇など使い慣れた物を持ち込み、職員も一緒になって配置し、安心して楽しく暮せるよう工夫している。		